



みやぎの明治村 とよま資料館だより

発行/㈱とよま振興公社
〒987-0702
宮城県登米市登米町寺池桜小路2
Tel: 0220-52-5566
Fax: 0220-52-2630
HP <http://toyoma.co.jp>
発行日: 令和6年9月30日



《 高倉勝子美術館桜小路編 》 第14号

— 勝子と水墨画 —

高倉勝子は日本画のみならず水墨による作品も制作しておりました。常設展示となっているのはそれぞれ屏風に仕立てられた次の三作品です。

- ・松尾芭蕉の「おくのほそ道」に構想を得た「おくの細道」
- ・近江(滋賀県)の石山寺・出羽(山形県)の立石寺・仙台の砂山寺(洞雲寺)の三寺に想いを寄せた「日本三大山寺」
- ・山形 吹浦の摩崖仏を描いた「流転」

この他に、自らの生まれ育った地の豊かな自然や歴史に題材を採った屏風や軸に仕立てた水墨画作品が九点ございます。

勝子が本格的に水墨画と出会ったのは女子美大に進学した最初の夏、帝室博物館（東京国立博物館の前身）東洋美術の部屋。その時の感動を勝子は自らの集大成といえる画集『悠一祈り・いのち・風・流・大地』収録のコラムに次のように述べております。

「…本物の雪舟の威厳、鳥獸戯画の白描線の躍動感、平治物語の戦記絵巻のかなしいまでの美しさ、北野天神、信貴山縁起の中にちりばめられた桜と墨との調和、いぶし銀地の神秘的な墨色、すべてまぶしく輝きながら私の心に迫ってくる。平安、鎌倉、室町の遠い昔の画人の心が、田舎出の画学生の十八歳の心を揺する。ひれ伏して拝みたいほどの感動を受けた。(原文ママ)」



図1

日本三大山寺

屏風:二曲一隻

その後下宿していた伯父に伴われて横山大観邸を訪れるというこの上ない好機に恵まれた勝子は、濃茶をふるまわれながら種々の話と共に「日本画をやる人はやはり墨の心を大切に…」という言葉を受けたとのこと。上京して初めての夏のこの体験が勝子の心を強く揺さぶり、既にはっきりとした自覚をもって画家として立つために歩みを進め始めていたのかも知れません。

裏面もご覧ください

登米伊達家の歩み

仙台・川内の登米伊達家屋敷

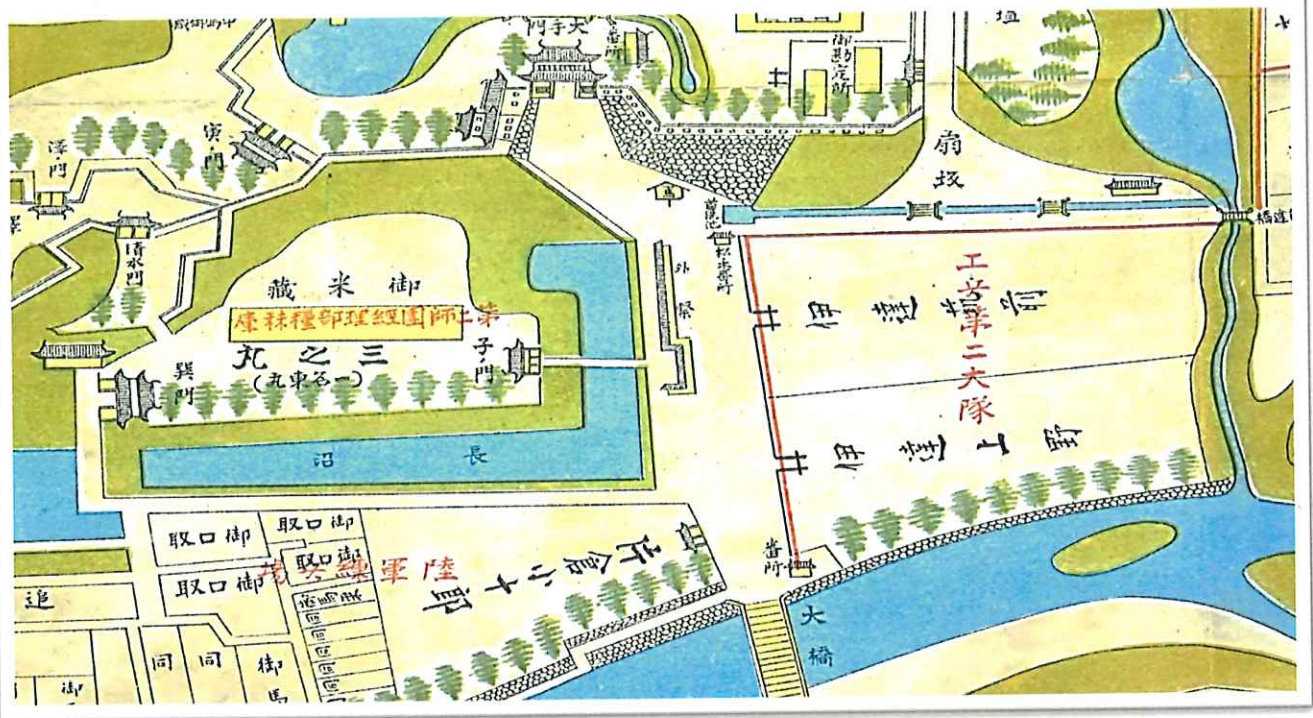


図2 「仙臺城(一名 青葉城云う)之図[拡大図] 旧陸軍第二師団作製(明治時代)

上の絵図は、江戸後期から幕末にかけて描いた仙臺城の図に城内にあった第二師団の様々な施設配置図と重ねている図です。

大手門前から大橋に続く広小路沿いにあった一門の屋敷。「伊達筑前」(13代筑前邦教)と表示されているのが登米伊達家の屋敷です。仙台伊達家と深いつながりがある家です。

現在の登米伊達家屋敷跡は、仙台の国際交流や学術文化発展の拠点「仙台国際センター」として使用されています。



イベント情報

9/14(土)～11/17(日)

登米懐古館 企画展

「刀身はキャンパス」

開催中

次号の告知

次号は、《武家屋敷 春蘭亭「旧鈴木家住宅」編》で今年12月に発行予定です。春蘭亭は、現存する武家屋敷の中で築約222年になりもっとも古い建物の一つとされています。常緑樹、落葉樹の木々に覆われた庭園と一体となった風景は、必見です。

編集後記

今回の資料館だよりは、「高倉勝子美術館 桜小路」編をお送りいたしました。高倉作品の中で水墨画は、作者の心象を深く表している絵画作品だと思えます。秋10月の美術館開館15周年の特別展示では、水墨画「双龍の図」、「昇龍の図」を展示いたします。ぜひ、ご覧頂きたくご案内申し上げます。



“みやぎの明治村”SNS 随時更新中です！
チェックしてみてください。